

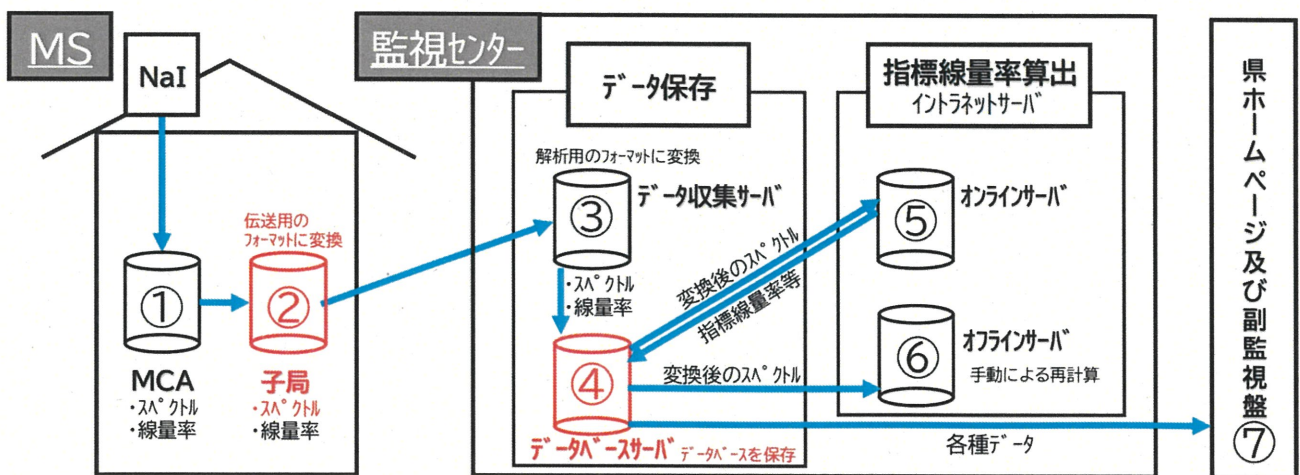
スペクトルデータの伝送異常による指標線量率への影響について（第2報）

第153回女川原子力発電所環境調査測定技術会において、モニタリングステーションで計測されたガンマ線スペクトル（以下「スペクトル」という。）データが正しく伝送されないことがある事象について説明したが、その後の対応も含め現在の状況を報告する。

1 対応の状況について

(1) 原因箇所の特定

本事象の原因は、平成29年度の女川原子力発電所周辺環境放射線監視システムプログラム改修により、子局(2)及びデータベースサーバ(4)におけるスペクトルデータの受信の過程において不適切な処理が行われるようになり、測定器のスペクトルデータが正しくデータベースに格納されないことによるものであることが特定された。



テレメータシステムにおけるスペクトルデータ伝送異常の概要

(2) 修正作業

スペクトルの伝送異常の原因となったプログラムについては、8月7日までに修正作業を完了した。それ以降のスペクトルについては、適切に伝送されていることを確認している。

(3) 指標線量率の再演算処理

平成30年4月から令和2年9月までの指標線量率のデータについては、正しいスペクトルデータを用いて再演算処理を実施し、10月20日までに完了した。

2 今後の対応について

再演算処理を実施した指標線量率のデータについては、パラメータを確認の上、統計処理を行い、過去の報告データへの影響をとりまとめる作業を本年12月までには終える予定である。